



俳諧聞書全



露谷子ノ礎源云 夫俳諧ハ俗談平話ニシテ其平話ノ内魂
アル事之古翁常々申カレタルニ七句作ヲ常ニシテ常ヲ離作ヲ
好テ作ラステベシ必一句ニ利ロラフクミテ身ヲ立ベカラストナリ
礎云 本式十句百負哥仙ニ至ルマデノ法ヲ知テ法ヲ出ルハヨシ法ヲ知ズ
ヲカス罪ノガレガタシ夫カクシケナクモ俳諧ハ國家治教ノ助ナリトノ台命恐
慎ニシ是翁ノ廣徳末葉タルモノ知ラズニ有ベカラス

或人問テ曰俳諧ハ何ノ爲ニテスルゾヤ答曰俗語平話ヲ正カタメナリ又曰俳
諧ノ道トスル所如何各曰俳ニ達磨アリ儒ニ莊子アリテ道ノ實有ヲ踏
破レリ歌道ニ俳諧アルゾ如此ト知ル時ハ道ニ背テ道ニカサフ道理ナリサレ
ドモ俳諧ノカタチハ哥道連哥ノ次ニ立テム上ノ一路共ニ傳ニ向宗
宗ノ一有 蕉翁二十五箇之傳

二十五ヶ曰俳諧ノ二字ハ古來子穿鑿アリ或ハ字書ニ俳ハ非ノ音トモ或ハ

史記ノ滑稽ヲ引テ俳ノ字ニ定メタルトモ穿鑿ノ理ハ明カナリ然トモ古今
集ヨリ俳ノ字ヲ用來リタレハ此類ハ古實トテ誤ラモ其通りニ用ルモアル
ナリ尤ハ雲御抄ニモ俳諧ト誹諧トノ二段アリサレドモ我家ハ誹諧ニ古人
ナシト省破スル眼ヨリ玄トモ妙トモ名ハ別ニ定ムベケレドモ言語ニ遊ト云道
理ヲ知ラハ我家ニハ今ヨリ俳諧ノ二字モ然ベシ他門ニ對シテ穿鑿スベカラズ
右ノ口傳ニ道理ト理屈トアリ

法橋紹巴ノ教云 夫連哥ハ色々六ヶ鋪習座候得ドモ第一ハ作意肝要示
イカニモノヲ知リテモ作意ナキ人ノ連哥ハフシク立候テ聞ヨカラズハ
古ノ人ノ申サレシモ五尺ノアヤムニ水ヲカクル如濡々トサハヤカニ立ベキ
ヨシニハ付合寄合ノ一サシテ定ル一有ベカラズハ古今ノ序ニモ人ノ心
ヲ夕子トシテ萬ノ言葉トナレリケリトハ入ル只今モ心ニ面白ト思ハ
ヲ仰ホサレ候ヘハヲノツカラ古哥ノ心ニ相叶ハ唐ニモ日本ノ哥ノ如詩ヲ

作シテ州木鳥獸ノ名四季戀述懷詞ホヲ撰ヒヲキハ皆日本ノ人ノ
心ニタカワズハ又詠哥大概ハ定哥ハ哥ヲ讀ベキ様ヲ知シヲカレハ其詞
モ心ハ新シキヲ以先トシ詞ハ古キヲ以用ベシ又云和哥ニ師匠ナシ古哥
ヲ以師トスルトハ坐ハ間古キ詞ヲハ覺被成ハテ奇持ノハ作意ヲ仰
出サレハ得ヘハ殘所ナキハ連哥ニシテハ昔ノ人ノ哥トテ皆々能ハアズ
ナ古今集ヲ始世々ノ詞ヲモ當世皆嫌ル一多くハ坐ハ不好詞モツケ様
ニヨリハテ能聞ハト定家ハナド仰ヲカレハ茶ノ湯ナドモ哥道同前
承リ及ハ古キ道具ヲ以心ヲアタラシクアソバサレハ一右ニ申ハ定家ハ
ノ心ニ相叶ハ哉哥モ連哥モ茶湯モ其時々ニ隨テ一樣ニハアズハ
昔ヨリハ去キライモ連クキクナリ付所モ一段コマナリ申ハ古連哥ハ
大方ノ句ドモモハ入ルツル只今ハ用付トテキラ井申候一多ハ坐ハ末ニ書
付申候然ルニ連哥ハ哥一首ヲニツニ分テ書連子百韻トナシ申ハサリ

十カラノ哥ト連哥トナシカハリメハ坐ハ哥ハ上ノ句ニ其心キコハハ子トモ
下ノ句ニテコトハリ下ノ句ノ心ヲ上ニ理申一多ハ入ハ連哥ハ一句々ニ其
理ナクテハ不叶一ニテハ然ハ一句ノ心タシカニシテ姿言葉幽玄三前句ノ
トリヨリハツレガル様ニ又三句メカケハナレハ如ナサルベキヨリ外ノ一アル
マヅクハ指合ノ一ハ執筆又其坐鋪ノ却者サタ仕ル一ニテハ間サシテ思
ニカケラレハハテモクルシカラズハ又發句暇第三心持ハ坐ハ將又テ
ニハニ習ハ座ハ少々書付申候又哥道本意ト申一ハ坐ハ冬ハ春モ大
風モ大兩モフリハ一モハ入ハ得トモ春兩モ春風モ物靜ナル様ニ仕ル一本
意ニテハ坐ハ一又春ノ日モ一ヨリミシカク覺ハ一モハ入ハドモイカモ
永々シキ様ニ申ナラハシハ又花ノ本意ノ一花トガリオシ出テ申ハ
サクラノ一ニテハタダシサクラニ花トシテハ正花ハ不用ハ又花ニサクラモ
付來ハサリナガラ花ヒキハナレ同面ニハ様不仕ハ賞花ト申テハ一坐ニ

花四ツハ坐ハ貴人却者ナラテ平人ハ斟酌在一ニハ一折ノ内ニテハ花ヲカシ
様ニ仕ハ間能思案ヲナシテ可仕一ニハ花ニ初中後ノ心持ハ入ハ先年
ノ内春ヲ待折節ヨリ花ノアラフマシラ云カタラハ春立又レハ様花枝
ニ雪積リテ花ヲソゲナル一ヲ思ヒヤリ木ノ目春兩ホソクゴロハ今
幾日アリテカ咲出ルヲモ見ニト待折ニモ漸ク梢ノホノカニ色メクヲ見テ
ハ一花開レハ天下ノ春ゾト知シ或都ノ空ノ家々ノ様咲モノコヲ又由ラ聞テ
ハ花見車ノアト先ニ袂ヲツラ子終日ノ往來モ絶アルヨソヲ井或ハ山單
ニキリヲク花モ咲タリト告來使アリ取アヘズ馬ニ鞍ヲキ木ノ本ニ
至テ看盃取々ニ春ノ日ノ暮ルヲモ知ラズ帰ルサヲモ忘レツ々今宵
ハ花ノ下ニ伏シテ臙月夜ニ鋪物ハナシト打詠明日ハ又モトノシラリ
ノ道ヲカハ又見又方ノ花ヲトイガナフマニ曙ノ空カキクレ西ゾホフル
ニ又ルトモ同クハ花ノカゲニ宿ラシ一ヲ思ヒ立別ル、ヨリシモ花ヲ手

ゴトニ折テ思ヒ〜ノ家ヅトナドイミテ玉章短尺ナドソヘテ送り
又年ゴロ音信レガル人モ花ノ盛ニトヒ寄テ今日ユズハ明日ハ雪ト降ナニ
フヲ思ヒ春モ未ニ移リ行ハアダニ散行花ヲ見テハ世間ノ分ナキフヲ觀シ
何處ニカ又殘ル花モアラシトアラ又深山ノヲクナド尋入ニ青葉ガクレノ
花ナド送後ナドヲ見テハ初花ヨリナラメツラシク思ヒ春モ暮ハツ
バセメテハワスレガタミトテ衣ヲ花ノ色ニ染衣カノ目ニ移リ行花ノ袂
ヲ又キカヘシフカナシミ又梢ノ若葉ノ紅ニ見ユラモ花ノ名ゴリト
オチガメ時鳥ノ初音聞テモ残花ヲシタツ心ハニルノミ又夏ノ夜ハ短
キフヲム子トシテ或ハ昔レハヤガテ明ルカト云或マダ宵ナガラ明ルトヨミ
申ハ又郭公ハカシマシキ初ナキムヘドモマレニ聞ムツラシキ鳴行ルカヤウニ
讀ナラハシム又五月雨ノコロハ明暮月日ノ影ヲモ見ズ道行人ノ
通ハモナクタニ々トシテ野山ヲモ海ニ見ナシム様ニ仕テ本意ニテ候

又秋ハ常ニ見ル月モ一入光ヤヤケク面白様ニナガメ四季トモニラク
露モコトサラ秋ハ志ケクシテ草木ニモヲキアマル様ニ仕物ニテハ秋
秋ノ心人ニヨリ所ニヨリニギハシキフモルムヘドモ野山ノ色モ替リ
萩ノ声虫ノ音鹿ノ鳴夕ナド物サビシクアレナル躰秋ノ本意ニテハ
又秋ノ夜ノ長キニモ子アカ又人モムヘドモ曉ノ子ガメニ心ヲスマシヨコ方
行末ノフナド思ヒツツケアカシカ子タル様をハ冬モ又長雨降フモムヘ
ドモ時雨ノ本意トシテ一通降カトスレバハ晴ルカトスレバ又降リナド
シテ日教ナカラニ村々時雨サヘ々々シテ月ノユクユニモオモハカルト時雨
板屋ノ斬篠ノ菴リナドニ音アラマシキ躰仕來ハ又雪ハ遠山ノハ奥
山里ニ降ツツキ爪木薪ノ道タヘテ旅人ノ袖モハラヒカ子タル折節モ都ノ空
ニ六弥敷初雪薄雪ト興ヲモヨホス様ニ可然ハ旅ノ本意ト申モノハタトヒ
田舎ノカタハラニテ仕ル連哥ナリトモ心ヲ都人ニナシテ仕ル始テ旅立時ハ

相坂山ノ圍ヲ越へ或ハ淀ノ川舟行未遠ク思ヒヤリ海ニ漕出ル折フシハ
都ノ山ヲ跡ニカヘリ見テナツカシク昨日今日カノ旅ナガラ月日ヲ送ル様ニ
覺野路山路ノ旅寐ニモ古郷ヲ戀志タヒ草ノ枕ノ夢ノ中ニモコシカノ
ノミ見へ待リウチサメ又レハ松ノ嵐浦波ノ音ヲ恨ミ人ヤリナラ又道ナガラ
ハルルキヌルラ悔歸ルサニ姿モ瘦セツカレ朝ノ袂衣ニホレハテタル様ニ仕
ナラハシム戀ニ六聞志見志待志思志逢志別志哀恨ミテ志其方様々
出ル何レモ人ニコヒラレ様ニハ不仕ハ先聞志ハマダミ又人ヲ風ノ夕ヨリニキ
キテヨリ起フシ物思ヒトナリアラ又ツテラ頼ミ一筆ヲモ傳へサホシク思フ
心ニ見ル志トハ思ハザル道行フリニコシ車ノ下簾ノヒマヨリ見ソメ又ハ
サル家ノシトミキヤウノカゲヨリホノカニミシ其面影志忘レズシテイカナル
申立モカナト思フ心是皆見志待志トハ年來契リヲキテモ何カトサワリ
有テウチ過又イツノユウカナラズトタノメヲク文ノ返事ナド見待リテ

心モアクガレ世今日ノ日ヲモクラシカ子一日ノ中二千歳ヲモフル心地ニテ待
ワブル折シモ萩ノ葉ノ音信ル花ス、キノマ子クヲモ君カ來カト夕暮ニナレ
サラ又魚ニテ門ノ邊リニ立休ヒ世ノ常ノ衣ノ袖ニモソラ焼ナドシテ夜ノ
更行ヲカナシミ待育ノ鐘ノ音ハアカ又別ノ鳥ノ声ハ物ノ数ニアラヌト
讀待ルモ是ニ思志トハユヘ有人ニイヒヨリテ凡其主モ心トケツベキ折ナガラ
或ハ人目シゲク或ハ世ノ聞ヘヲハ、カリ夜ナ々々行通ヒテモ人ニアヤシメ
ラレテハ立歸ル風情又ハ一筆ノ玉章ニモウキ名ヤモレント思フコソ思志
ナレ又逢志トハ年月ノ思ヒノ末ヲトゲ今宵ハアタリノ人ヲシヅメ灯
ホソ々トカ、ゲヲキ圍ノ中ヲモヨシ有様ニツク口申ナシ待折フシモ月
ノホノカナルニ少キ童ヲ先ニ立妻戸ノ脇ニ立ヤスラヘル衣ノ袖ヲ引圍ノ
内ヘイザナヒ入テモマダホツケナレバ、年ニハナカハシカラケナドモ取又
ズ折フス筈ノ上ニ枕ヲ並ヘナガラマダ下ヒモツレナカキシヲトヤ

カクヤト云寄テヤ、心モオトクルマ、ニサツメゴトナド淺カラ又ナルシ
別レノ意トハタマ々々回來ル人モ宵ニハ余ソ目ヲ忍ビ更ハツルコロホヒニアヒ
逢契ナレバヤガテワカレシヲカナシミ秋ノ夜子夜ヲ一夜ニサシテ又ルトモ
アクマジキ由ライヒカタリノ鳥ノ声鐘ノ音曙ヲ急クイヲ恨ミ今夜ワ
カレテハ又イツアヒ見ニテヲオボツカナク袖ノ涙セキアヘ又マ、ニヨウミ
月モ入方ニナリシノ、メノ空モ心ホソク引ワカル、マ、ニカナク衣々ノ跡
ヲシタヒ見送リテ又子ノ夢ノヲモカゲハカナク心ナラザル後ノアシタノ辭誠
言葉モ及バザルベシ恨ノ意トハコトサラ品オホシ常々契ヲク中モ人ノイヒ
ナシニヨリ絶ハツルヲ恨ミ又ハ我ヨリマサル人ニウツロヒ又ルバ世ノ中例
トニテカクコソアル物ナレト数ナラヌ我身ヲ恨ミ又ルノミナリ或ハ
比翼連理ヲナカヒシ中ニモムナシクナリシ跡ニテ長キ恨ノ言葉ヲ
連子或ハ二道カクル人ハタガヒノ恨止ヲナシ又ヲキフシソヒナル、中

ハニモ少ノフミライヒ出テ恨ルヲモアリ又アマリ難面人ヲ意ノテム
ナシクナル人ハ其怨念ヲ殘シテ物ノケトヤ其心ヲナヤマスノ多シ此
程ヲナレ折ニ隨ヒテ怨ノ数々サラ々々申ツクスベカラザル物也
翁徒然ノ言葉不傳子ヨリ傳ル 金屏ハ寒シ銀屏ハ涼シ産ハ奇麗
ナル處ニモ見ユナリハキタナキ所 ホコトイヘバ風ナドニ立ケキ有花雲
晴ヤカニ花曇リヲツトシ花ノ吹雪ハ目ガマシク花ノ雲ハ眠ヲ催ス卯ノ花クダシ
ハ降モノ卯ノ花ノ雲降ズ萩ハ園ニ音アリ 萩ハ月ニ靜ナル清水ハ影ヲ移シ
嗽ナドストモ足洗フヲナカレ所ノ雪見ハ朝ニニテ山ノ雪見ハ暮ヲ望ム
白梅ハ早ク寒シ紅梅ハ少シ遅ク暖シ桃ハ賤シク賑ハシ李ハ艶ニサシク
春風ハ朝寒ク明秋風ハユウベ寒ク吹春來ハ音ナク秋來ハ音アリ菊
匂フハ淋シク靜ナリ花薫ルハキヤニニテサバメキタル風情ナリ春
ハ物ゴト靜ナリ娘々之秋ハ物ヲサビシクサワガシキ茶摘風流ニ

素摘ハ他シ若菜摘ハケダカク茶摘ハ田舎メキタリ田植ハ賑ハシ田草
取淋シ夏ハ野山深ク冬ハ野山浅シ川狩ハ男ガチニ草狩ハ女勝
ナリ霞ハ朝浅ク霧ハユウニ深シ霞ハ立トイヘド降トハイハズ霧ハ立トモ
降トモ雲ハ朝行テユウニ帰ル木ノ花ハ朝咲草ノ花ハ夕咲ノ海ハ晝サ
ワガシク夜静ナリ川ハ夜サワガシク晝静ナリ夜子又鳥ハ一時鳥
鴛鴦鳥駒鳥水雞雞鵝曉ヨリ啼鳥ハ鷓鴣雉子鶯鶯鶉雲雀
行々子來ルハ在之行丁ハ朝梅花ハ兄ニテ水仙ハ乙ナリトゾ花散
賑ハシク花落ハ淋シ花散ハ急ニシテノ落ハユタカノ露登ハユウニ露ニ
ルハアシク牡丹ハ花ノ富貴ニシテ菊ハ隱逸ノ寔ノ又リ立白壁ノ塗立酒
醉醒寒キ情ノ并ニ衣々埒土鴉ヒヤカニ緋縮緬紅粉染アツキ
情ノ又グヒ椽ハ川端松原置ノ足スベシキ躰ノ酒ハ賑ハシキモノ
茶ハ静ナルモノ餅ハ心地能モノ飴ハ童ニキモノ若菜ハサワヤカニ櫻

ハ長閑ナルモノ梅ハ強モノ海棠ハ賑リタリ笑タリ梨子ノ花ハ静ニシテ
泣氣色アリ祭リトバカリハ加茂山祭ハ件勢ノ神楽トバカリハ禁裏
余ハ里神楽里祭リナリ鶯ハ待心本意ナリ蜀魂ハ畦山ヲ尋テ聞
心ナリ又思ヒヨラズ聞鶯ハ枝ニ鳴時鳥ハ鳴過ル又枝ニ鳴ガレモ
アラズ様ハ尋柳ハ尋ズ花紅葉ハオシシ又オシマズ荒ハアハレヲ本
トス初雪ハ待時雨霞ハ待ズ藤ハ永キニ他タル密四月盛ナレドモ咲
初ル處ヲトリテ俳ニモ春ニ用ユ牡丹カキツバタハ哥ニハ春ノ連哥
ニハ夏ニ用ユ若菜アシラヒナケレバ夏ナリ青菜雜ニモ季ニモナル
草ノ若菜春ノ一勿論ナリ草ノ青菜雜ナリ西瓜ハ秋ニシテヨシ
ミソサバ井ハ秋ノ小鳥ナレドモ冬ニ用ユ落ノ臺ハ雪中弥敷春モ
冬ニモ用ユ早蕨ハ岩上ヨシ虫ノ声礎夜合ニナラズ夜合ムスブモヲ
カシ鐘ノ声トシテヨシ鐘ノ音トハセ又トハイヘド哥ニモヨムナリ礎

打トハイハズトイヘドモ作り様ニテ打トモ云ナリ心得有ベシ拾夜着
布團扇ナド發句ノ時ハ季ニ成附句ノ時ハ雜ニモナルナリ前句
次第作り様次第ニ屏風張教殊ノタクヒ連哥ニモ用ルナリ袋
彼岸ヤブ入ニ季當ル春秋季ナクトモ前句ノウツリニテ其季ヲ定
西ハ雜ナレドモ四月七月ノ心特ベシ汝干トスレバ春之汝ノ干ハ季ニア
ラズ汝干源モ作り様ニテ春季危シクレト云ハセツ時分ヨリ六ツ
上刻迄夕暮ハ志バラクノ間ノイナリ夕グレニアラシユウグレトゾ
初汝ハ八月十五夜之草枕植物ニアラズ逆枕トカク冬ノ月ハ更テ
オソロシク復ノ月ハ更テ面白シ春ノ月ハウスキラ愛ス秋ノ月ハ
隈ナキニメヅル桃ハ仙家メキ在所メク梅ハ瘦テ風流ニ移ハフトキ
ニシカズ霞ハ晝目出度夜カナシ雉子ハ晝ツラク夜アワレナリ
蛙ハ晝オカシク夜ル淋シ薺ワハカナク美シモクゲハ限リアリ陽炎

ハ消テ明ルク稻妻ハ消テクラシ又月夜ニモナキニハアラズ白魚ハ弁
シク弱々シ様鯛ハ美シク賑ハシ但シ小鯛ト呂汁ハオカシ鰻汁ハ
イヤシ花園ハ廣クニテ春ノカタチ花檀ハセハシクテ秋ノ形初紅葉
ハ山深キヨリ初花ハ人里ガ先ナリ紙衣ハ老ノ姿又稚キ人ナドニ
紙フスマハイヤシク旅ナドニ雪ノ明ハ空ヲワカタズアワ雪ハ地ニガメズ
氷ハ雪ヨリモ早ク霜ハ氷ヨリモ早シ復ノ蛙ハ高キ処ニ秋ノ暮蛙ハ赤
下ニナク青スダレハケ高ヨシスダレハ涼シ紫陽花ハカワル雉頭ハカレテモ
色カワラズ鮎ハ親子連ズ鮎ハオヤツル、草モハ草ノモギニシテ
芦ノ角ハ芦ノ芽之蝸牛ハ家ヲ荷ヒミノ虫ハ枝ニ下ル山路トイハ道
有二極ル 右翁ツレタニ思ヒ出ラレシヲ書殘シタマヒシ物ノヨシ
二十五ヶ云萬物ハ虚ニ居テ實ニ動ク實ニ居テ虚ニ動クベカラズ實ハ
巴ヲ立テ人ヲカバムル処アリタトハ花ノ散ラカナシミ月ノカタグクラ

惜ムモ實ニ惜ムハ連一哥ノ嘘ニオシムハ俳諧ノ實ナリ抑詩哥
連俳ハ上ツニ嘘ヲ作ルニ嘘ニ實アルヲ文章ト云實ニ虛アルヲ無智
辨ト云實ニ實アルヲ仁義禮智ト云虛ニ虛アルモノハ世ニ稀ニシテ
或ハ又多カルベシ此人ヲサシテ我家ノ傳授トイフベシ

二十五箇云文章トイフハ變化ノ一ノ變化ハ虛實ノ自在ヲ云之
黑白善惡ハ言語ヲアヤニシテノ黒ヲ黒シトモ黒ヲ白シトモ白ヲク
變化ノ言語ニテ道理元來リ黑白一合ナリ志バラク天地ノ變化ニ遊
フベシ人ハ變化ヲ去ハ退屈スル本情ニ况俳諧春夏秋冬ノ變
ニ隨ヒ月光ノ風情ニ至ルモノナレバ百句ニ變化スベキナリ其變
化ヲ知リテモ變化スルヲ得ザレバ眼前ノ能句ニ送ヒテ前後ノ
變化ヲ見ザル故ニサレド變化ト云ニ新古ナキナリ人間春秋ニモ
新古ナキガ如其時ノ新古ヲ見テ一卷ノ變化ニソフベシ變化ハ

大概料理ノ味ニ甘ク酸辛キガ如シ好モヨカラ又モ惡キモ惡カラ
ズ時ニヨロシキヲ變化トハイフベシ

二十五箇云上下トリ合テ歌一首ト心得ベシ起トハ虚空ノ界ニ向ヒテ
無念相ノ中ニ念相ヲ起スヲ發句ト云一物起ルトキハ相對ニテ
又生ズ是ヲ歇ト云始ノ一物ヲ定ルニ定ルノ字或ハ請ルトモ請ハト
一物ヲ請モツ心ニサレバ發句ハ陽ノ歇ハ陰ノ才三轉ニテ天地
ヨリ人ヲ生ルモ人ハ天地ヨリ動クモノナレバ然モ天地ヨリ出ル如ク知
ベシ合トハ萬物一合ナリ哥ニハ流ノ字ノ心ナルベシ是ヨリ變化ニテ
山アリ川アリ一巻ノ成物トハ云ナリ

紹巴云發句ノ一才一其時節相違ハ又樣ニ仕テ所要ニハ發句ハ百箇
ノ始ニハバイカニモ夕ケ高ク幽玄ニキヒラメニナキ樣ニ仕テ發句ハ切字
ト申テ出入ハテハ不叶ハ切字ハ坐ハへバ平句ノ樣ニ相聞へ不申ハ四季

ノ外雜ノ發句ト申フ無ハ坐ハ俳諧モ可爲同前モノニ
二十五箇云發句ノ切ト云ハ卷別ノ心ノ物ハソレジヤニヨリテコレ
ジヤト切ヲ明ルレ壁バ客ト亭主トノ卷別ナリトハ切字有
發句ト云トモ心ノ切又時ハ發句ニアラス

紹桐々不子熟啼る序のうら 此五文字ニテ心ヲヘガテタルナリ
切字ノフハ可モ全儀アリ先ハ發句ノ骨ガラトモ云ベシ
哉也ーそりもきールリぬーむをさそいさよ
いついーいつ いつれ あぢえ 下知

大方此分用來ハ 紹巴云

区去ノーー現在ノーしトテハ見ーワーニー区ー
ナドハ過去ノーしニテハ見ーをー区ーニるしナドハ現在ノーし
ニテハ坐ハ現在ノーしニテ哉トモてトモ留不申ハアヤト申ハル

トモけるトモ留リ不申ハ通々大方留申ハぞト申ハふト留申
ハ字字ノー 一つ 一つれ いくちま いくちま 多れ 舞子ノ詞ニテ
ハ字申ハ右字ナクテハ字ラレ不申ハ其外 くと ヤと ニテハ字申ハ
一字ハ字ト申フハハ けん せん せん ナドハ字ハ右字ナクテモ
ハ字申ル

礎源云五ツノ月ト云フアリ常々心得有ベキト之此五ツノ月ヲ能知
人ハ萬物一合ニシテ千萬ノ句ヲ咄トモ一句トニテ倚題ノ心有ベ
カラズ靜ニ吟シ目ヲ閉テ能々考オロソカニ見タマフベカラズ
草の葉も燈の火も音の月 待宵は一里ハくは別々
名月や露のよまねのけい いろやや花老葉うらう音の園
ねんねの障子よあてはる月

礎云雜ノ句ハ 船を立浦北野ニテ 千句ヨリハシマル名所志

ニカギルナリ其趣ノ動又様ニスベシ其證ヲ引
海ノ際々兩やまのくし浮身岩
上ありちふも秋窓ほとあふす
全

此句ニテ知ルベシ名所ナラバ當季結バズトモ苦シカラズ名所ハ
數十キモノ在名ハ多キモノナレド句仕立ニハ思シテ句ハ世間
有ハ皆失数手本式十句ニテハナシ本式ハ卷毎ニ第三テ
留方別々ニ此故ニ第三ノ留方ナト定メラレタリ初卷神
祇帳第三返相通有二卷目相通ニナシ三卷雜帳第三返季ナシ四
句ニ春ヲ呼出シ様ニテ月ヲ結フニ夫ヨリ八卷目雜前ノ如シ
暮ノ月ニ紅葉ヲ結法ナレドモ廿三合ノ有時八月バカリニテヨシ
表ノ内ニ紅葉有ベシ口丈ニ 本式十句ノ格式
初卷春神祇題何 二卷春題何

三卷衣雜

四卷隻題何

五卷隻同

六卷秋題何

七卷秋同

八卷名所雜

九卷冬題何

十卷冬同

如斯書テ一間ニ法ヲクニ當日ノ式ニゲケレバ口傳
本式百負ノ一格ハ古來稀ナリ能師傳ヲ受ガレバ一家ノ窟
トハイワレザルニ古翁ノ甚秘タレバ他ト論ズルナカレ俳句
神祇ノ帳ヲ三返相通シ有ベシヲ三同シ神祇トイヘドモ表ニア
ラワサズフクミテスベシ表表ニ九句ノ月初表十句ノ景物ハ執筆
ノ呼出ス法ニ神句ノ甚秘ハ句ハ花前ニ春ノ月ヲスルガ法ナリ揚句ハ
月ハツ花四本ノ句ハ花前ニ春ノ月ヲスルガ法ナリ揚句ハ
宗匠ノ役 本式百負格位
正句神祇題當季 初ウ神句甚秘 二ヲ戀題何

服

三日月傳

名獸

才三

亥題何

隻ノ月

名月傳

花

素秋

二ウ名鳥ノ

三ウ古人ノ名

三ウ名草

十ヲ亥何題

亥

名木

名所

名ノ降物

待宵ノ月

亥何題

冬ノ月

名虫

花

十六夜

花

十三夜

十ウ春ノ月白ヒノ花移揚句

右位如斯一間二織モノ人間鋪ノ口傳

表ノ一

神祇

叙教

述懷

懷旧

戀

無常

名所

地名

右ハセザル古式之去ナカラ發句ニアル時ハ服

ニテ其心得有ベシ

都

關

湖

是ハ所々ニ有モノ

十レバ苦ニカラズコ、ゾト定テハアシ、富士山所々ヨリ見ユレバ是モ

ヨシ 日光膳 奈良團扇杯ノ類其物ヲ躰ニシテ地名用ノ

十ケレバ苦ニカスス翁ノ冬ノ白ウ朝鱗ノホトリ芒キノ白ヒナキト

有ニテ知ベシ 五ヶ村ノ柳スヨリ挿サマノ一草

人名モ述懷ニテラズ眼前ニスルハヨシ

尾中ノミヨシ虫スルニテ善ク月 枕在寤寐ニテヨク夢ククモ

病躰モ如斯持病躰ノ輕クニキハヨシトイヘドモ心得ベシ

澄々々々ノゆきよありあり 古集ニ知此アレドキラウ故ノ有心

親子述懷ニアラス 親ト子述懷ノ

一ウノ作ニアリ此一以萬事心得ベシ

袖カガミ百負

初表八ウ七ウ目月

裏十四ウ九ウ目月 十三ウ目花

ニラ十四夕 十一夕 月
ニラ十四夕 三夕 月
名ラ十四夕 三夕 同
ニウ十四夕 九夕 月 十三夕 花
ニウ十四夕 二夕 同
名ウ八夕 七夕 目 花

朱守

初ラ八夕 七夕 目 月
ニラ十五夕 十夕 月
ニラ十五夕 三夕 同
名ラ十五夕 三夕 同
ウ十五夕 七夕 目 月 十一夕 花
ウ十五夕 初ウラ 三夕 同
ウ十五夕 二夕 同
ウ八夕 七夕 月 花

長哥行

初ラ八夕 七夕 月
ニラ十六夕 十五夕 月
短哥行 表 四夕
ウ十六夕 九夕 月 十五夕 花
ウ八夕 七夕 月 花
ウ八夕 初ウラ 三夕 同
ウ八夕 七夕 月 花

源氏行 初六夕 考 月
ニラ十五夕 三夕 同
七十一行 初八夕 七月
ニラ十五夕 三夕 同
四十四 八 八 月
ウ十四 三 月
ニラ八 七 夕 花
ウ十五夕 坊 補
ニラ十五夕 眩 月 初 同
ウ六夕 五夕 月 花
ニラ十四 三 月
ニラ八 七 夕 花
ウ十四 三 月
ウ六夕 五夕 月 花
ニラ十四 三 月
ニラ八 七 夕 花

服ノ一

二畫箇云服ハシツカリト韻字ニテ留ルト云フハ先ハ初心へノ教
定ノ字ニカナニカタメナリ

名ノの各もむつりやまの廿

うぐれす降カゝるゑさめたり

此夕ハ始テ俳諧ノ意味ヲ尋ル人ニ俳諧ノ名目マギラハシト下
ヒタルヲ其所直ニ一捧ヲアタヘテ蝶ノ夢モサマシヌル所一夕相

對シテ服ノ躰トナレバ眞字テニラハノ全義モナシ兔角ニ服ノ
身カラ持タルハ服ノコロニアラズ發句ハ客ノ位ニシテ服ハ亭主
ノ位ナレバ服ハ已ガツラマケテモ發句ニ云殘ニタル草木山川一字
二字ノ風情ヲカヘテ客ノ餘情ヲツクベキニ此服モ蝶ノ一字ヲ
尋子アリテサマヲ見ルベシ

不轉子ノ教 服三秘 大ガラミ 小ガラミ 腰ガラミ
服五体并ニ證句 赤添

枯枝又鷹とやうルリ 秋カキ音
漲くさけり 雪のを里

相對

もは通じしよ紅子降ひて春のやま
相れぬととくしよとくしよ月

違付

月花のあつし計多そん空の入

比留

秋は活きりそや末冬小松川
植根とせいのをささくる声

對付

春の七ま七堂伽藍のまささく
曙のほろ三笠 旅 山

礎源ニ云服ハ字服ヲ定テ後趣向ヲ立ベシ字服ヲ礎ニラキ格ナレ
ナレドモ作意ト、ノフ上六上下ノ論ナシ尤字留ヨロシ五十負哥
仙ハテニラハ留モ苦シカラズ百負トマル時ハ動又文字ニテ留ム
ベシ其證ヲ引

日の春をさびくお露の歩みハ 其角
伽丹うさし去年の相の定 又鱗

是百負ノ服字留ナリ公羽ノ評ニ云負徳老人服体四体アリト立

ラレ待レドモ當時ハ古々ナリテ氣色ヲ云添タルヲヨシト入於相違
ク立テシカモ古枯ノマ、ニテ枯タル實ノ梢ニ殘リタル氣色詞コマカ
ニ桐ノ実ト云ハ桐ノ木トイハシ同シナガラ元朝ニ桐ハ冬々キテ風
ノマハナレドモホノカニ霞朝日白ク出テウルハシク見ヘ待ル体ナル
ベシ只シ桐ノ實見付タル困本意新シク俳諧カ、ル所ニヨリ待
ルト之能々味フベシ古翁ノ小枝ニイヘルアリ扱ハ百色百遍ト心
ヘベシトナリ

八九乃空ニ雨降リ柳ハ

春の鳥乃留ける声

是ハ其場ヲ字扱ニ定タルニ

荊株ヤ糸田ノ上ノ秋の暮

暮くく日丹代りあり

是發夕ニ場ノ出タルニ時分ヲ定メタルニ

梅の香丹のつと日のかりい海が ちよと丹桂子の啼き

是發夕ニ場モ時分モ出タル故ニ時節ヲ合タルニ

市中の物の白ひやまの月 何らしつと門の声

八月雨を集こし早し空と川 岸の草をとりて丹桂

是打添ノ扱ナリ打添トハ家ト云ニ家柱垣杯ト云ラ付ル冬トハ

海ト云夕ニ舟岸ナド付ルハヨシ舟ト云夕ニ海川トハ前夕ノ

ハハサシ證夕ノ趣ヲ知ルベシ古式云吉野山ニ花姥捨二月ト

付ハヨシ花ニ吉野月ニ姥捨ハ悪シ此趣平夕ニテモ同心ナリ

いづつ松けきよと浦の空 鴨の地岸と入りの月

是照合ノ扱ナリ照リ合トハ浦ニ峯海ニ山ナド押ナラベテ云ニ

能照リ合サレバ離々ナリ

時多待ぬんかりおちあれ 雨ち若菜丹五てるたの口

是ハ心ノ付ナリ待又心ノ折モアレトハ常々待レト云々ナリ西ノ
戸三立ルト付ナリ一勻意ニ任セテ知ルベシ

蛙のこゆまゆゆ〜地麻莞ぐ 額丹何ゆる春のふりり

人情ノ服ナリ人情ノ服ハ平均ニ落入安シ其心得アルベキナリ

惣而服者趣向之立過ルヲ惡トス惡上云ハ平均ニマキレ安故ナリ

了士の手丹火を狐ミルリ秋露 梅の柿乃海らるる山吹

是ヨロ留ナリ如此コト云字ヲ礎ニ置テ古式ナリシカハアレド發句ノヨ

ヲ定ムルナレバ上下論ナシ三春三秋ノ題ヲ辨テ付ベシ

色々の名も紛い〜春の羊 折レテ襟のつゑハ莞ぬる

是テハ留ノ服ナリ服ハ礎ヲ文字ニテ留ルナリナルヲ如斯テニ

ハニテ留ルハ服体備リタル上ノナリ自得ノ人ナラデハ不可好

お月や鶴のい〜並い居〜 冬ハ朝日の何れを光

是モテハ留ナリ同テハナガラ是ハ又格ヲハツシタルナリ發

句ノテハ留ニ任ラレシナルベシ自得ノ人ナラデハ好ムベカラズ

フ〜ま〜静みまハ〜ひ〜や 酒志のな〜ふけたの月

是矯暮ノ服ニ矯言ノ服ハ遠行ヲユルス格ナリタトハ客ノ自

ノ句ニ立ズ主ノ自ノ句ヲ付ルニ違ナリ客發句亭主服

餞別ヲ請ル服祝賀等ノ服皆此格ナリ

新まハ〜と進ぬ〜途ハ 了〜お改をの字〜遠ナリ

是餞別ノ句ヲ請ラレシナリ

け〜乃〜糸〜布〜せ〜 娘〜葉〜風〜燒〜もの

是亭主發句客服ナリ何モ違ナリ是時宜ノ法トモ云也

知〜〜エ〜て〜え〜せ〜や〜美濃の田植哥 笠原五えん少破のふりぬ

是客服ナリ美濃ト云ニ其國ノ名所ヲ付タル例ナリ打添ノ

心ニシテモ不破ト云ニ美濃ハアシト知ルベシ

礎云奉納正夕ノイハ先神慮ノ動又様ニ作意有ベシ在神慮ノ表

ニ名目アラハルハ悪シ内ニフクミ勺作有ベシ又五七五ニ相通

アルベシ其相通ハ天ト有ハ地ト請志ノブト有ハ山相通スベシ其ナラ

ガル時ハ五音相通スベシ

同云祝言ノ正夕ナラバ反音ナキヨウニ相通有ベシ又奉納一卷ナ

ラバ發夕服オ三直相通有ベシ神夕ノ格本式ニ同シ其證夕

秋の田もくろむ祢ハ民もあつる 田字も袖をぬくは奇

是本式俳諧第一二用ユル也此本傳ナキ者ハ雜ノ勺神夕

ナド出スヲアリ心得ベシ相通ト云ハ上五七ヲ讀下ニシテ民モ

ヲトツバクヲホモヨロヲト相通也服ノ時カクハ天智天皇御製秋

ノ田ノカリホノ休一首ノ如ク請ラレタリ能ク心得ベシ

第三ノ事

二十五箇云第三ノ留ニ文字ノ定リタルハ一勺ノサマ發夕ノ

様ナレドモ下ノ留ラヌ所ニテ次ノ勺へ及スベキ爲也此理ヲ知

時ハ母ノ字てノ字ニモカギラズト知ベシサレド此勺ハ第三

サマナリト百勺ノ中ニ置テモ撰出スホドニスベシ第三ノサマ

ヲ知ラガレバヤハリ定リタル留リ然ルベシ世ニ韻字留ニ傳授有

トテ或初稿或時鳥ナド或ヲサヘ字カヘ字ノイ有ハ知ヌ

人ノ推量也

情附もすゝむ定ぬ啼とよは

何レノ時カ我ニ此第三アリハ一坐ヲイマシメテ他聞ヲユルサズ發夕

ト平勺トノサカイハ此第三ノ韻字ニテモ知ベシサレド世ノ常ノ留リテ

フ闕マジキ一也 右ノ口傳ニ三物ノ韻字ノイアリ

如斯作ルベシ 万葉カキコトモ 袴も妻ふとよ

如斯ノ夕ハトモカクニモヨミカヘサズ

山川ハ物ノ食毛のこまきすん

居後 祓 窮 屈 止 め て 律 と へ ん

是とん留こふん留ハ上三ウタガイノ詞ヲ置ベシ廿無テハ留ラズ

疑ノ辭ハ ヤ じつ じつ じつ じつ

後ハハ 何 是等ノ言葉ヲ上ニ置ベシ

夕ハ 祓 律 止 め て ヤ カ へ ん 此句上三ウタガイ

ナシ是治定ナリト 此後ノ評有白鹿曰 祓 止 め て ヤ と ヤ ノ 字

ヲ夕中ニコメシト云

久々ノ光カケテ 春ノ日 止 め ん ち ん ち ん 花のうらみ

イカテノ詞ヲコメタリト 傳書ニ見ヘタリ 然下上ニ疑ノ辭遣ニ

ニサイナシ 是ナレヤ留之 照ノ其コトヲ見定テ作ルベシ

山 麓 カ 登 止 繼 風 止 ん ち ん

是モナシ留こイカニモ實ニ作ルベシ

花 麓 止 ん 骨 止 ん 止 ん 止 ん 止 ん

是文字ガナシ文字留ト云上下ノ五文字ニテ六ナキ物ヲ居

ルナリ下五文字ニ動キアリ心得ベシ

鬚 止 ん 止 ん 止 ん 止 ん 止 ん

初メヨリカクテニハノ入ハヨシ志カシ傳ナクテハ作ルベシ何レモ句

タケト 納 ヲ 思 フ ベ シ 留 ハ ナ シ 三 振 ト 云 一 ヲ 傳 傳 ス 可

或曰第三振トハムギツブナリナドノ教モアリ又下五文字又

何々出シルナリト云リ多ト云バ 何々ト云 風 吹 止 ん 止 ん

下五文字并影物カ又引起ス一カ出スガヨシトイエリ

四句メノ事

二十五箇ニ云四句メ決前生後ノ句ナレバ殊更大事ノ場所
ナリ輕クトイフハ發句取第三迄ニ骨折タルニハ四ナリ
人タシヤリ勺スル様ニ成シタレド一卷ノ變化ハ此勺ヨリ
始ルニニ万物一合トハスマシタル也惣テ發句ヨリ四句迄
ニ限ズ或ハ重ク或ハ輕ク或ハ安ク或ハ六ヶ敷其勺其時ノ
變化ヲ知ルベシ此掟ハ中品已下ノタメシニシテ中品以上ノ
人トテモ此掟ノ所以ヲ云フヲ知ラザレバ自己ノ俳諧ニク
ラキト云ベシ

或曰四句メハスナラニ云キリタルガヨシタト云バキトカ歐トカ云
如ノ文字下ニ遣フガヨシト云リ

月花之吏

吾曰月花ハ夙雅ノ的ナリ月ハ月月ニ在花ハ四季ニ有テ四
花ハ月トモ定ル也サレド名殘ノ表ノ月ヲ畧スル格ニテ哥仙
ノ時ハ二花二月トモアリタキ也表ノ五句メ三月アリテ裏ノ
七句メ二月秋ヲスル一花前ノ秋季ヲスル一モ秋季ノ植物
モ仕ガタシ秋季發句ナラ又時ハ表カ裏カ二月ツアリトモ
苦シカルマシキ一ニヤ此後器量ノ人モ有ベシソレモ一坐ノアヒ
シラヒ有ベシ初心ノ人ハイカニ月ハ七句メ花ハ十三句メ有テ
ハヒタト他人ニ讓ル辞宜クイヅコニ有テモ子細有マシスデ
月花ハ夙雅ノ道具ナレバナクテ叶ハ又道理ヲシリテサノミ
月花ノ勺ニ新奇ヲ求ベカラズ一座ノ首尾ヨロシキニ隨ヒテ
前々休ノアル勺ナリトモ其時ノ程能様ニ付テ置ベシサシテ

奇怪ノ一ヲコノマズ

礎源云月ノ定坐ノ一ヶ月ハ一巻ノ正美タルバ初生ノ連ハ手練
ニ及ヌトテ不作老俳ハ若キ物ニテガラアレトテ作ラズ
譲リマテ哥仙ニユバ表ノ六句メハ折ハシナレバ最早延サレズ
トテ五句目裏ノ七句目モ延セバ十句目春ノ花ニ摺付
ニナルユヘニ伸サレズニ面ノ十一句此顔ニ當リニ者ハ老若
カクハラズ月ノ坐ト定メシハ後々ノ法ト見エタリ古來哥
仙ニ六月ノ定坐トセシハナシ表六句裏十二句ニ面十二句内
月一ツ宛有サヘスレバヨシ古集ヲ能考タラバ定坐ノナキ
明ナルベシ然ナガラ表ノ六句目ニ面十二句メノ月ヲコボレ
月ト云是ニ格アリ奥ニ知ス同意ニナラザル様ニ長短ニ
配シテ新キト前句ニヨリテ四時且暮ニガギラズ巻毎ニ三

宛ハ有物ナレキワメテ古シ心得ベシ

松風月多老道ぬ祓の酒の碎

夢結しある虫をある月

是コボレ月ノ古式ナリコボレ月ハ折ハシ二月ヲスルナリ
月ト云字ヲ如斯礎ニ置フナリ

さあみら月 コトバノ月ニ縁ノツギキタルハアシハ

せをらさる月 移り月 ナド、言葉二月ノ字ヲ

立テ心ニ縁ヲツグケテ月ト云字ヲ礎ニ置フ也

けなも愛もくくら砂の舟子 悟由祓させて皆シ月を

古集ニ如斯有ドモ法ヲ守ニシクハナシ又月ニ花ヲ紅葉
ヲ付ル一法外ナリ紅葉ハ秋ノ正美ナリ其正美タル物
ヲ陰分ニ付ル一何ノ夙情ゾヤアラシ春ノ花秋ノ紅葉ト
春秋ノ景物タリ心得ベシ

礎云素秋ノ下本式ノ景物復ノ月ニ秋ヲ付ル也復ニ暈ヲ
秋ノ道具ヲ何ニテモ作ル也又秋ニ夕宛付常ニ仕立テ苦カズ
或云月ハ是夕ヨリ起ス心得ニテヨシ折ハシハヨク添ハ心得カヨシ
服ニ似テ服ニアラス輕ク云ナリト

花ノ座之夏

礎云哥仙ニハ定リナシ表ノ折ニ花一本ニ折ニ一本有ハヨシ本
或百負ノ古ハ前ニユルガ如シ句ヒノ花ニ傳有

同正花ノ夏見渡遠キ花ト心得ベシ床ノ花ハ心ノ花ニミシ
甚秘 櫻ハ月前ノ氣色ヲ云ナリ山櫻ハ散ヲ正美シ此
古或三ツノ傳ノ上ハ正花ニ似セモノ有ベカラズ

夏ハノとけり花のよめ山 木乃下丹け七輪七様
山の名をよめてやあよそ様をれ

是ハ發夕ナレドモ連夕モ此心ヲ本トシテ夕作有ベシ
イカヨヲナル前夕ニモセヨ是ヲ心ニ含テ花櫻ヲ作ルベシ
於盤山於盤の物ヲ花を々 花乃於る運弄師の私
是句ヒノ花ト揚夕ナリ發夕ノ意ト服乃意ヲ齟齬セ
ザル様ニスベシサリトテ同ニ夏ヲ付ベカラズ祝賀ノ巻ナラバ
其巻ノ疎畧ニ作ル甚ノ誤リナリ發夕揚夕ハ巻頭
巻軸ナレバ天地ト心得ベキノ第一之本末トハハザル俳
諧ハ嘘ツクモノ、如クアサマニキトノミタカルベシ
同云花ニ様ヲ付ル

燈の丹惆り巳り止る花の巻

冬夜ハヤつををハを展 汁

發夕哉留二十キ時ハ揚夕哉留クルシカス入白雉白蓮哥ニ

八様ニ花ヲモ付又レド俳諧ニテハ花母様ヲ付ハヨシ梅ニ花ノ
付ハユルサズトヲシタレドモセバキ教ノ連哥ニ有テ俳諧ニ
ハユルサズトハ心得ズト古集ヲ閲スルニ翁ニ有此傳ト六苦
カラズ

山つちを嘆りくしあり花のやう

又梅ノ花ヲ付多ルニハ

あまのさけの市のあさり

大和路へ入る吉野の花

花ノ座ヲ櫻ニスル一甚秘ナリ

山乃後ハ必乃大川

とよ子雪ハ梅のふもとへ哥

是本式ノ外ミダリニスベカラズ哥仙ニ用一甚秘ノ上傳有

二十箇云世ニ花ト云トキハ梅のフナリト云人モアレト花ハ
萬物ノ心ノ本也譬バ花智花嫁ノ類ノ如ク茶の花
花染物ノハナヤカナルモ其物々ノ正花ナレバ花トハ賞翫
ノ二字ニサダメリ又何レノ花ニテモ春季ニシテ植物ニ
三句去ベシ花ハ春ノ發スル物ナレバナリ古ヨリ花ニ櫻ヲ付
ル一傳授アリトテ初心ニハ免サズ或ハ梅鯛ナドノ類ナドノ
前ノ花ニアラザル梅ナラバ明ラカニ知テ附ベキナリ花前
ノ植物モ此類ニテ知ルベシ花ハ梅ニアラズ梅ニアラザルニ
モアラズト云一我家ノ傳授トハ知ルベシ
不轉子ノ教俳諧ノ花ハ春ノモノニシテ櫻ヲ云ト心得ベシ
一哥ニ六十キ一古今集四十一首梅ノ一哥有中ニ七首花
トヨメルハ何レモ詞書ニ梅とコトワリテ三十四首梅トヨメ

ルハ何レモ花トモ様トモ有己下花トバカリハ廣ク諸本ノ
花ヲヨメルヲユニ何レモ哥ニモ詞書ニモ様トハ云ザリケルコレ依
テ思フニ一年ノ中ニ春ハ千々ノ花咲イツルヲリナシテ其ガ
中ニ様ハイトスグレテ唐ノ人ニ見セバヤナドヨメリ蕉翁
花ハ様ニアラズ又様ニアラザルニモアラズ花様ト云フハ古哥
ニモヨミテ古今集ニウツセミノ世ニモ似タカ花様咲ト見シ
マニカヅ散ニケリ是ラノ古哥多シ古今集ハ哥ニハ様花トヨ
メドモ詞ガキニハイヅコモノモ様ノ花ト文字ヲ添テイミ
云テタバニ様花トイヘルヲハ哥コソアレ詞ニハツモ見ヘズ
哥ト詞トカワルヲ有ヲモワキモフベシ俳諧ノ花ト様ト
差別アルハ花ハ三春ニ渡リ様ハ三春ノモノト古來スル
也

不轉子教

句ヒノ花ノ夏

句フト云ハ薰ル事ニ限ラズ紅ナドノ染ウツロフ心モ有テ
一會ノ奥ツキズ其句ヒ餘奥ヘウツヒシ無心ナリ

糸櫻ノ夏

同教云花ニ様ヲ付ルヲ大切ノフトス和哥ニモ花ノ題ニ様
ヲヨムナレバウカキト付レバ同意ニナレリ是ラ畏テ連哥ニモ様
人様戸ナド

あゝむとと花よしつやー首の骨
か身けり海ら山さ〜人

右宗因今同服

辛味の花を花よと云
山ハ様と云同らナリ

桜の花ハカタク付ベカラズ右翁句尚白歌

畏れ石のさくさくの花久し

お歳月酒と移るる桜

右叩端前桐葉附

移るの月咽くさるる花

奈よみはやうほうはま

右史部前活圍附

連俳トモニ花ハ紅白ニ限ラズ右渡遠キヲ正花トハ秘ス心

花口交

桜并附ルハ法外タレドモ席ニヨリ其上ノ人ニ對シテ

返句モナリガタキト有トキハ植物ニアラガル正花ヲ

求メテ附ベキト也心得ノト志カシニ應ハ時宜有ベシ

桜と移るる市のあはれ

大和路へ入るとさるる花

竹翁前嵐雪附花ニ吉野ヲ付ルヲキラフ吉野ニ花ハヨシ

礎月花結之夏

一卷ノ正美々々ノ月花ナレバ深ク思ハ実ハ結フモコノミシ

カラズドイエドモ古例イクラモ有上カラハ苦カラズトイ

ドモ短句ニハ必結フベカラズ

花を赤いよ月ハ

古集ニアレド翁スラ後悔ノヨシ必作スベカラズ

季移之夏

二夕ノ間ヲダヤカナレバ春ニ秋冬ニ夏トモ何レヲ何レ

ト付テモヨシ只四季ニワタル物渡ル物ト是定テ季ヲ

移スベシ同季五句去トハイヘド間ニ他ノキナクハ多トヘ
十句ヘダツトモスベカラズトハヲモシロキトシ

當季ヲ案ズル夏

月花ノ句ニモ限ラズ四季ノ付句ニテ季ヲ案ズルト前ノ二
三夕輕キトキハ當季ヲ捨テ趣向ヨリ案ズベシ譬バ師子舞
ト趣向ヲ定メテ門ノ花トアイシライ一長カト趣向ヲ定メテ
橋ノ月ト會釋シ前ノ二三夕重キトキハ花其當季ヨリ對シ
花露月露ノ類ニ句ノ自情ヲ付ベシサレバ此ニツノ案三方
變化ノ爲ナルヲ知ルベシ

二季ニ渡ル物之夏

二十古ハ二季ニ渡ル物ハ後ノ彼岸トイヒ後ノ出代リト云サレバ
前句ノ秋ニ付ル時ハ後ノ字ニモ及ズ秋季ナリ此類ハ多ク

有トナリ或節句ノ二字ニ名目ヲ付ル大方植物ノサシ合有
是前句ノ季ニ隨フベシ西瓜ハ秋季ヨリ星月夜秋ノ月ニアラ
ズ此詞有時ハ化ノ季ニテ異名ノ月スベシ虫砧ノ類ハ夜分ノ
心ナラ子バ面白カラズサレド夜分ニサシ合ナシ鐘ハ音砧ウツ
ハセヌトナリトゾサレド能ク知テスル時ハ一坐ノ勸ニヨルベシ

發句ノ時ハ季ニ用ル夏

二十五箇云或ハ夜着蒲團足袋袋頭巾ノ類扇袷裕ナドヨノ常
用ル物多ク發句ニスル時ハ當季ニシテ平句ニスルトキハ
サシ合ヲの類ベカラズ一旬ノサマニテ慎ニ冬慎ニ夏ト見ユルト
キハ其儀ニ及マシ此徒ハ道理ノ差合ヲ知リテ文字
ノサシ合ヲ穿躑金スベカラズトシ

發句ノ儀リヤウノ一

發夕ハ屏風ノ繪ト思フベシ已ガ夕ヲ作リテ目ヲサギ
及ニナゾラへ見ルベシ死活自ラ顯ル、モノ也此故ニ俳諧
姿ヲ先ニシテ情ヲ後ニスト云ベシ都而發夕トテモ付夕
トテモ目ヲサギテノ眼ノ前ニミルベシ心ニ思フトモカリ
テスルハ推量ナリ目ニ見テ作ルト心ニカリテ附ルト自
門他門ノサカイ筆紙ニ盡シ難シ諸集ノ附合ヲ見テ夫ス可

附夕案事様之支

二五發夕ハ格別ノイナリ附夕ハ其坐ニ望テ無性ニ案シヌカ能
ナリ我心沈ミスレバ趣向モ沈ミ我草卧ヨリ人モ草
卧テ一坐成就セズ附夕ハ初念ノ趣向ヨリ心ヲ落シ
ツケヌガヨキナリ此故ニ趣向ヲ定ル傳授有物テユ夫ハ
平生ノイナリ其坐ニ望テハ無介別ナリベシ定家モ

哥ハ深ク案ズルイナラヌ物ナリト仰ラレシヨシ付夕ハ
第一ニ調子ノ物ナレバ有トテモ早ク出スベカラズナシト
テモ久敷案事へベカラズヨキモ悪キモ一坐ノ程ヲ知
テコソ俳諧ノ情ニ便リ有修行ナリセバ知ベケレ唯シ
大事ノ附夕ナドハ先云ハナシテ後ニ思ヒ返セバ心ノムス
ボレモ解テ格別ノイナリ

口傳ニ兵法ノイナリ

趣向ヲ定ル支

眞俳諧ノ付合ハ先趣向ヲ定ムベシ其趣向ト云ハ一字二字
三字ニハ圖^スベカラズ是ヲ執中ノ法ト云也物其中ヲ取テ
前後ト見ル時ハ百千ノ數アリテモ前後ハ近シ人ハ始ヨ
リ案事テ終ヲ尋ル故ニ其中ヘダタリテイラシ

初櫻

塗笠

暖簾

鷲

手習子

月

新酒

カクノ如趣向ヲ定置テ或ハ作ニモ或不作ニモ或ハ堅ク或和ラ
カニ黑白青黄ノ姿ヲ作ニ皆只勺作りノキヅマ也此法
ヲ知ラザバ人ノ俳諧ニ驚ク一有在ニ字三字ノ趣向ヨ
リ變化ノ姿モ明ニ見ルユヘニ在打越ノ好悪ヲモ早ク知
故ニカタリ此法ヲ知ラザル人ハ我勺ヲ知テ後ニホコシモヨカラ
ズ變化モ面白カラヌモ今迄ノ骨折ニ心ユリテ其勺ヲ崩
ス一ナリガタシニ三字ノ趣向ト替ルハ曾テオシムベキ
骨折ナラバ此法ハ第三變化ノ爲ナリト心得ベシ古ヘノ
儒書佛教トテモ源氏伴勢物語トテモ其中ヨリ始ラ
ズト云フナシ天地豈人ノ爲ニ生セズヤ其中イソノ始ナル
一ヲ知ルベシ 口傳ニ天地ハ人ノ名付タルナリ
サレドニ字三字ノ趣向モワタラズ五体八体ノ作り方モ

ヨラズ世ニ云空焼ト云ル案事方有其時ノ其勺ニ有ザレバ文
字ノ道理ニハ書ツクシ難シナルハ百韻ニモ三所カ四所ハ有
ベシ然ラザレバ言語ノ理屈ニ落テ俳諧ニ不傳ノ妙所
ナシ此執中ノ二字ヲ始テ我家ノ秘方ト云ベシ人能此
法ヲユ夫セハ天下ノ政モ明ニ入向朝暮ノ働キモ知ルベシ

意勺之支

同意勺ハナキヲ用ズ其故ハ嫁娘ナド野郎傾城ノ文字
名目ニテ意ト云ズ只當勺ノ意ニ意有ハ文字ニハカ、
ワラズ意ヲ付ベシ此故ニ他門ヨリハ意ヲ一勺ニテ捨
ト云ルヨク意ハ夙雅ノ花実ナレバニ勺ヨリ五勺ニ至ル
先ハニ勺ヨリ有テ陰陽ノ道理ヲ定ル之是ハ我家ノ
發明ニシテ他門ニ穿鑿スベカラス

切字之夏

同切字ノイハ諸鈔ニアマタナレド今ノ世ハ殊ニ推量多クシ玄
妙切大マハシナドイエル節ノイハ我家ニ曾テ僉儀ナシ此
ゴロノ俳書ニ出シタル證句トテモイカナル道理トモ心得
ガタシ其外三段切三字切ナドモ今ノ世ノ證句心得難ニヤ
三字切 山室ノ心カキヤル月
三字切 子供ヨク空庭ヨクぬ瓦じらん
或ハ素堂ガ鎌倉ノ吟ニ
或ハ

目子青柔山けり江生初程

ト云句ハ目耳口ノ三段ト明ラカニイヘルガ梅若菜ノ句
心ノ三段ト知ルベシ殊ニ三字切ハ一句中ニヤトイヒテ
イカイト疑テ下ニラントハ子ルハ三字同意ニテ切ハ一所
也或ハ

鷹 此月も今やてりぬと啼うら

ト云句ハトノ字ニテ押ヘタレバヌノ字ハ切ナラス此類ア
マタ有諸鈔ニオサヘ字カヘ字ノ僉儀ナシ切字ハ百
有テモ切ヌト多クシ或ハ

夕影ヤ秋もいさしの瓢江

ト云句ハ上ノ夕顔ヤ秋ハト句讀ヲ切テハノ字ニテカヘ
タレバ切字ニナラズ此類猶多カルベシ

梅乃声やむと月影をの影月

是ハ中ノ切ト云止時ハ何々トシテサテ祢ヤノ籠テ夜ハト中ニ
心ヲ残シタル句讀ニウカリケル人ヲ初瀬ノト詠タル哥ノ切ナリ

我々を象と人并り置せよの年志也

同是ハ挨拶切ト云之ハ自他ノ差別有故之此ノ切ハ我が家ノ發夕ニシテ他門ニ向テ穿鑿スベカラズ

サシ合ノ夏

同云變化ノ道理ナリト先其故ヲ知ベシ變化ノ自在ヨリ世ニサシ合ノ掟アリ萬ノ式法ハ此サカイニテモ知ベシ

かぶ湯の松を花より後より

是夕落着ヲ知レバ發夕ト第三ト平夕トノ差別ヲ知ナリ發夕ハ二夕ノ内ニ曲節ト云テ有此夕ハ花ヲ曲ヲシテ松ノ臘トハ節ノ曲節ノニツハ尋常ノ謡浄瑠璃ニモ可知也

辛後乃似ハ妻のお終り

是ハ第三ノ様之此夕平夕ヨリモ重キ所ハ松ヲ終ト云節アリ

辛後の妻を春の夜に涙して

是ハ夕ぐ春ノ氣色ノミ曲モナク節モナシ此發夕ヲ世間ニ留ルハ留ラスハト云沙汰アレドモ其ハ初心ノ人ノ論ナリ松ハ勝ハト有ベキ夕ヲ臘ニテト云テ哉ハ変定ノ辞ニテ花ヨリ松ガ面白ト変定スルハ偏顯ノ褒美道ニ難哥モ嫌フ也

さくしゆのすのへは約とえり
ひるのさる根を花とそらハ

ト讀タル其花ヨリモ辛崎ノ松ノ臘ニテ只面白カラント不変定ノ中ノ変定也或ハ丹テ留リノハ

この月を三月より曉る

是ニテノ心ニテモ知ベシ月々ノ三ヶ月アレドモ正月バカリ

ハ誠ニ三月月ニテ有ニト爰定ノ心ヲ殘シタル也ニテ留リノハ哉
留リノ第三子細有ニテ知ルベシ

口傳ニ雜談集ノ有

鶯ニ鶯ノ句ノ更

昔武ノ深川ニテ鶯ニ鶯ノ句付タルト有_レ其時モ知人稀
ナレバ今サラ付合ノ格式ト云ナリベシ

菫の佃本みざるを眺めざる

ざるの指るむの跡屋とよるなり免

是ハ前々ノ云取ヲ哥ノ前書ト見タルヨリカクハヨメリヤリト
付タル也此類ハ前々ノ心ヲカシクコナタヨリイ成タル賦
物比奥ト云物之或前々ヲ蘭書トモ能々更ニ名風情也

オカ直ラ概の小節と換ラ祢之

片をけ山丸月をえりや

是ハ前々ノ五文字ヨリ古代ノ哥ノ様ト聞ナシテ月ヲ見ル
哉ト哥ニヨミタル之或ハ平句ノ哉留リニモ限ズ此類ニハコノ
子細有模様ヲ好キレイラ求テハカナラズスマ敷作意之

宵闇ノ句ノ一

或時哥仙ノ裏ノ七句メニテ宵ヤミノ句ヲ出セシニ三句
ノ中二月ヲユメタル也

宵闇をあらぬり神のうえに

おより萩の風はよみはるり

八月を移むとくは此の懐綿

尤宵闇ニ八月ヲ付カタク打越ニ殊ニワロシ十句目ハ花前
ニヒニノ無念ナレバ三句ノ心二月ヲ持セニ八月ノ月ノ字ヲ
見渡シノ月ノ字ハアイニライタル也是ヲ一坐ノサバキト

云也宵闇ヲ月トハ思フベカラズニ夕取合テ月ノ字ノ働
キト知ルベシ

名所ニ雜ノ夕ノ事

名所ノ發夕ハ都テ雜ノ夕モ然ルベシ名ヲ云ヒ季ヲ云
道ヲ云時ハ夕作必ヲダヤカナラズ

新記を唯書流又后より所
歩りたるハ杖定板を流るハ
かまづうま角ぬりかよひた好石

此中次广明石ノ夕ハ垂船ノ兩國ヲ夕トヘ其サカニ這ヒ
ワタル程ト云ル詞キリノ思ヒ寄タレバ必シモ蝸牛ノ當季
ニモカ、ワラズ是ラヲ雜ノ休ミト云テ名所ノ夕ノ
格式ナルベシ

口傳ニ旅ノ面ノフ有

不轉子教

虚

西庇の若黨つまらき枕
むくし新子野良泣き
夜くハ方の涌の若とる

實

ぬかり田植まみ流る物ん
くく起るまうらまを
舟子草の湯の浦あはれり

白

夏記ハ世をゆるし之平
捨くくこころ移るる死るの離れ
火をぬ巨槌亡人うらん

他

新秋をとりよしの日
あま風の又あまの山あり
我も子細をたるとる

多

多士を待たつた井戸の端
月お井邊を流るるあし
せしきしし石河をふ子供たち

少

ともし子細をたるとるあし
あまの山ありあまの山あり
休務しととととととととととと

件

深より一連の山ととととととと
秋をせ来るむととととととと
有明の山ありあまの山あり

用

若葉の山ありあまの山あり
あまの山ありあまの山あり
あまの山ありあまの山あり

采

あまの山ありあまの山あり
あまの山ありあまの山あり
あまの山ありあまの山あり

後

先王まよるる時帳取約やう
才もその侍輩も申子悪まれし

曉ぶりし多らわつまもつけ

不轉子教付勺十五條并證勺

理

甲斐のわうとハ、言の始末

法取れ玉ほりこりるあそ

遠行

法子七ねん十年定申

松原の頼り念解の爲はみ

其人

なふめくうしにねんよそめ

難波をこいまへ斬

其傷

隙とりまてきまうし子

とのわれし東のうり子窓ぬそ

情

かゝるゝと五良は後とつけ

おとさ志しとねらふ

時修

息子と親父のふれまの目あ

博志をふぬさめの世

難付

祿をうけよのふきき報あ

たゞもくくと雨の降るあり

白鳥の白

又も大なるの鶴と云わたり

降より田の青や紅くはなはた

白鳥

晴の女や又紅くえんろ

柳の合島の根煙をいつとたけ

市子付

江戸の女を白ひ亭と云われ

あそびもいれとる白とくや

心付

殊もよき所くもくもく

傍にのちへんみをや

吟

麦酒の俵に下流る傍示杭

賣人七三れぬ程改た

寂

竹内の秋も又り終るを

ゆとそくもてあそぶる

鏡

星さへそぬけり

いづれもいれぬ軍のたる

白

白の巻ノ白に三三テ白鳥が白々ニ渡ル物之證句上難

礎云

自他之夏

此方付方ナシ

正しつゝ子厄り漏やうらまん

和菓子の花咲かひるうらまぬ

此方付方ナシ

正しつゝ子厄り漏やうらまん

和菓子の花咲かひるうらまぬ

まつとらりと碎め強ゆるはる

此方付方ナシ

並木の石敷のまき〜のころ

並木の石敷のまき〜のころ

よそを先とささる子瀬流り澄み

自

時辰

化

化

其傷

自

自

化

化

同向付

いりまきま交はるれめ

おのらえとふまのねんよ

此方付方ナシ

海月嵐をねまきま

以忘れゆるは方め

着病のぬきまはるる

若よの〜まきま早秋

自へ自ラ付ル其人ノ自ヨリ外ナシ

ひつ〜まきま

囁々局み笑上局

海やえ裾子並の向色

深衣と思ひめまきま

日巡れあえ

自ニ他ノ自ニ

向ベ

其傷

自

自ヨリ祥々

自

他

他ノ向付

向付

他ノ向付

其場 其場 其場

自

人よりいへり申す所は

他自ヨリは

世はれねそ業とよき事なり

所はる所は

ほろくはるを根茎の茎

他の向身

此外ナシ

餘案一二の満と所其にて他

世々分別ある事其をとり 他何とん

必りや我も信世をなめく 自他何とん

けり

巻世果ナリと向ふもあり 他

うに世の中とたのまゝなり 他何とん

めあやうそい欲も後なるや 自

連夕ハ自他ノワカキ所要也將三夕ノ轉ニテ思フ
ベシ此外付方ナシト云ハ自他ノワカキニシテ人情ニ
シテハ付方ナシト云フ人情打ツキタル時ハ其場
々々ノアシラヒ時節時分テ相此五ツヲ何レナリトモ
付ベシ人情ナキ夕三夕ツツキテハ悪シ人情ノ夕ヲ
人情ナキ夕ニテハサムハ悪シト云モ三夕轉ニガレ故
人情ナル夕ツツキタラニハノバニ夕出スベシ是モハ
シ夕ト云ハワロシ其場々々ノアシラヒ時節時分天相ト
唱フベシ

其場 其場 其場

場の新 赤くはきけしりたぬめさや

時介 月ハ庭へ入ぬ 清く

時節

雨の後の門田の稲葉穂あつて

天相

あつてはあつて空はあつて風はあつて

は何しモ人情ナキ也其場トハ野山海川等ヲ云也
其場ノアミラヒトハ硯机戸障子都テ其場ニ有ベキ物
ヲ云也四節トハ四季ノ季ヲ持物ヲ云時分トハ晝夜
旦暮ノ一ヲ云也天相トハ日月星ヲ云降物トハ雨雪
ノ類從物ハ霞烟リ等ヲ云又人トニテ自トモ他トモ介
タガルウアリ付ウニテ自トモ他トモ定ルナリ

影まよひたり枝より枝矢持伝ふ

後ろ姿あつてはあつてさうか

カク作ル時ハ前ウモ他ニナル

はめりりりりりりりりりり川

カク作ル時ハ前ウ自ニナル是付ウニテ前ウヲ定ル法

二ウノ向ノ支

同云同意ト云テアリ前ウヲ附ウニテ釋シタルナリ能有
ク也心得ベシ

風もあつてせぬまのさいりり

あつてはあつて山々々々々々々々々々

如斯ク折聞ヘタル所ハヨケレドモコトガク前ウヲ打返
シ唱フタル能ク味ヘ考ベシ

あつてはあつて所ハあつてあつて

一あつてはあつてあつてあつて

是耳ヲモテ情ヨリ付ルユヘ理屈ニシテ一ウターズ目ヲ持
テ衣ニ荒タル姿ヲ見テ取時ハ種々有ベシ

雨の音を藤つくと八木のおや

亭下まよりくは杯のお便

心ガシイトアサマシク驟夕ハ前夕ヲ受タルモノ故其人ニ
名セサル目ノ夕ヲ云フナカレ心得有ベキナリ古人ノ曰
連夕ハ淺川ヲ渡ルガ如ク行ニヤスラカニ云下シ夕一
夕ニ流ヲ思フベシ

防主の連をゆゆ風い

是一夕ノ理屈ナリ

堤より田の青ヤキマといさだより

加茂の社よりよは社より

又 せしとせしよはせれはきり岸の寺

時多る皆鳴は舞たり

是等ワキテ龜鑑也不可忘

夕ガラノ

何ものいせとらし多る道の原

右意

る性寺へ伯母の養父入

是モアミ一元祿ノ風調ナラバカクアリタシ

一おろろ宿はるるあ寺るねや

上意ノ度

柳よりよはのんをたせりや

カクいそんハ念のんも風流もアリ又夕もと

月よそん河をつまき終り

心若意上石をよス玉造り

或云此肌実ニ上キノ作カ前々ノサマ碇打トハオシトベテ見
出スベキヲナレドモ若黨ニ碇ヲ打セル玉造ロトハ感心ノキ
際ナリ加ク勺作ヲナス時ハ後勺ハ大坂市申娘ヤカレトキ
自在ヲ得何様モ趣向有ベシ後勺ヲ起ス作上キノ妙又此勺平勺ニ
作ル時ハ 我碇リ碇打居る俣一サヨ
カ、ル白勺ナサバ付合ニハナルベケレドモ後勺起スヲ薄クダシタ
コナジ所ノミニ居リ実ニ下キノ作意ナルベシ

髪打付り瘧の休み日

石首の水ふらふら登つ

此附スジ親カラザル附スジ上キノ多クナス處ナリサハアレド石首
ハモトハシキ物花ヤカナル風ナシ又水ニ登ラオヨカストハ瘧病夕
ル人ノ仕業今コ、モトニ見ルガ如シ

夏白鳥いさつ笑つて風か同ら

新原をよころふあめの内

此附等閑ノ作意ナラバ

日云復とくけて遠ら糸とよめ

ナド、付ベシ數珠ヲスラル、ノリ物ノ中トハ名僧知識ナドノ
通ラレケルヲリシモ晝顔ノ咲居ルサマ野菊又ハ萩ニテモヨカル
ベキナレドモ夏ハモト閑情ナルモノニテ何トナク佛クサキ
風情又風カラルノ辞平人ノ乗物ニテハコトモシロカラズ誠ニ
全キ作トヤ

美濃カ言葉柔の今みととら

偏居みかひとつとえとら

此附上方スジヨリ繁花ノ場へ出タル人ノ休也左ハアレドモ

前夕ヲナシ見ルニ或ハ呉服屋ノ番頭又ハ日席トリ老人
ナド何様ニモ後夕起ス作言外ニ有

大松ノ隣ノ阿房ノうらる流
於子ノ親メ方戻るうけ

○ 風吹ヨくる川干メ縮
稀クモ毛〜(雄氷サリ)

○ 月道ヨク大不チ一西
神妙ノ茶呑居るをい馬刀

是等ノ見出シ其サマヤ也

時〜〜さるちさく是のヤクヨク
茶と心え〜能勢と茶よる
此の象ヲトリ〜後ヨク眠多ク
肩とよろ〜(信)の襟もと
是等ノ夕多能クニ有也知ルし

不轉子ノ教花心得之夏

- 春ノ正花 花筏水ヘニナリ
- 花ノ滝 花ノ波 不水邊
- 花ノ雨雲 花ノフキ 非降物
- 花ノ雲 非降物
- 花鐘 神祇也

花ガタミ

花四

釈教也

花ノ友一守一主

人倫也

花ヲ友一守一主

非人倫

花ノ宿一隣

居所也

花ヲ宿一隣

非居所

同月心得之支

秋ノ一今日ノ一今朝ノ一夕一暮ノ一

三日一出一凡此類夜分ニアラス

三日一明一

夜分也

明ハナル、一非夜分

一ノ主一ノ友

人倫也

一ヲ主一ヲ友

非人倫

一ノ宿 夜分也居所也一ヲ宿非居所

一ノ氷 非水邊

一ノ出汝^冬氷^ル 水邊也夜分也

一ノ雪^霜 非降物

一ノ桂 非植物

一ニ夜^纏夕 一ニ憲ヲ結夕折ヲヘダツベシ

真如ノ一^心ノ月^物ノ一 此類雜也

月ノ勺百負ホニ八面ニ夕宛テスベシ名殘面大方ハ不出也

非月分

一草 一毛^駒 一讀ノ宮 一輪寺

一郷 星一^夜 一^次ノ一 右月ノ字有

ナガラ表ノ月ニ用ズ

非正花介

一 何ウシ 一 色 一 丁子 一 灯ノ一
火ノ一 雪ノ一 六ノ一 浪ノ一
茶ノ一 此類 統ノ一 此類

紹巴、教訓一ツ心三ツ有支

一 一かー一 一 志の姁 一 阿とれ 一 かましと
命ノ一 三バニノ一
糸ニヨルヲ心 玉ハホムル也
カニニシスル心 人ニカクル心 煮しキ心
物ノアワレニキ心 刀モミ早心
アツパレト云心
ナクノ心 カコツケノナリ
チカヒノ一チカヒトハセノモニナドスル一
ケニゴト云心 利根ナル心 カダジケナキト云心

一 玉の尾 一 か鳥丹 一 ろるめ

言葉一ツ心三ツ有支

一 ちぢぢぢか 一 みくくれ 一 うつ 一 さりーと 一 むさしり
風モロト 雨スサフトハ降一 西降スサフトハ止一
ミヘカクル一 水ニカクル心
カヅタゴト云心ナリ カクト云心
入中ゴトラ云心 カニコダテラヌル心
乃たスル一 ハツカニキ心ナリ
永雨ノ心アリ ウタノ心アリ

一 已れて

ワリナクテト云心之 ワカレテト云心之

一 たえて

物ノタへタルナフオモフ心
カニシスル心

一 みさしん

物ノヘニゼズ色ヲカへ又心
水ノサホーヲ云ナリ

一 みぢぢ

ヒソカナル心 三十日ヲモ

一 むろつ

ホニナルカツラ 女ノカミヲモ云

一 あやま

アキナキアジキナキ

アヤナキハワケチ
キナリ

一 ゆらひち

コノロナシスト云ユクヘナキ

一 ぶらぶら

ヨモスガヲノ
ツ子ノコノナリ

愈之言葉

一 ちりり ヤクシクス

一 又 補 別テ又ス

一 きぬー ワカレ

一 えぬー ス

一 後の所 別テ後ノ朝

一 のはせり タヨリ

一 さくえん 秘語ヤサ

一 うきこと カ子テヤクシク
ス

一 むつこと ムツマニキ

一 ぢむむー ヨモヒアハガ
ル

一 ちんろろ 子ウニム子
ヲド

一 ちんぢふ ナル心

一 ぬいぢぬ

ナキ名ノキ
ヲスル

一 ちんぢ

物イハス

いぢも世あ イヂトモアラ 一うちつけ ハシメテノ

あはれめ 隣女ケイセウ 一うられめ 日上

あはれんう ヤダニカ 一かしまえんう 泣けりてヨリソト

あもひくま オモフコニ 一あはしん アタノ心

あはれんう コトスル 一あつまぢ 夕ヨリナキ

あはれんう メマゼスル 一あつまぢ ヨリドコロリ

あはれんう 我心ヲ人ニ取ル 一新花 ハジメテアア

あはれんう 逢サマ来 一あつまぢ コウスノモト云

あはれんう ルサマト忘 一あつまぢ 味ト云ニ似タ

あはれんう 古ノ妻ヲ云 一あつまぢ 身ヲ勤ス心

あはれんう 我ク人ヲ 一あつまぢ 只コヒラ云

あはれんう 秋ノ植物 一あつまぢ 上ニ同ジ

あはれんう 只忘ル 一あつまぢ 只コトバナリ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ 名ノタツ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ 返事ノ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ 心ナラズト云

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ イモリノイモリノ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ 魚ヲ取女ノヒゲニヌリ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ ヲキアシキ辰舞ヲスバ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ ヲツルナリ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ 君ト我トノ中ニサウ

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ リ有

あはれんう 只コヒラ云 一あつまぢ カ五

一 夜をしのぎ 息辛人ヲ夢ニ見
トテ衣ヲカヘヌ

一 うしろめなき 心モトナキ

一 かた思ひ 秋ハ思フ心ニ

一 あら思ひ 秋トモ思フ心ニ

一 ちちる 秋ガ心ニハツル
コトナリ

一 心く 秋ガ心ニハツル
コトナリ

一 あら 下ナリ

一 目かれ 目モハナヌコト
アカラメ同ナリ

一 ちのめ ウツクニキ
コトナリ

一 人のせ 人目志バクテ開
トナリ

一 まの木の 信心の心有人ナリ

雑之言葉之夏

一 朝早 朝早ノ朝
ナリ

一 朝早 朝早ノ朝
ナリ

一 朝静 朝静ナル体
ナリ

一 朝静 朝静ナル体
ナリ

一 朝子 朝子ノ朝
ナリ

一 朝日 朝日ヤ夕ツクヒトモ

一 朝子 朝子ノ朝
ナリ

一 朝子 朝子ノ朝
ナリ

一 朝子 朝子ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

一 夕月 夕月ノ朝
ナリ

ヌルト云言葉ニ
合テカヘルトモ
云ナリ

夕月ノ朝
ナリ

一むろ玉

夜ノマクラ

一何川

山ノマクラヨト

一何んつち

天地ノイ

一あぐら

おと去マクラヨト

一久り多

空又六月神
ナド云枕言バ

一志子多

枕ト云マクラ
言バ

一三つうり

久イヨシト云
枕言バ

一雲のたそ

ユウベの雲ノハタノキ
ニビクヲ云

一雲井の池

内裏ノイ

一百家の内 上三回ジ

一あゆみ

ナニツホ 枕ヨボ
大裏有 咲花
ナクテハ春ニテス

一山へよ

帝手ノ脚

一まとの実

親王ノイ

一花の道

哥ノイナリ大和
哥同前

一鏡沼の石

是モ哥ノイ
六ツサ哥ニ六ツ
ノイナリ

一ムらけ

鶏トモクダケ
トモ同名

一霧のす

雑ノ名ノ海前

一山の尾の鏡

山ノ尾ヲヘテカ
ノカ尾ヲ女トリカト
思ヒナクヲミ云

一肌ちの鏡

肌ニ有水ヲ云
ノイナリ

一われ

藻ニスム虫ノ名

一手有りけ

竹ノイノ心
ガ心ノイハシ
ザルコノイ

一草花

イナムニ口何レモ言
ヲミキタル様成ヲ云

一松風の雨

松風ヲ雨ノ音
ニキ、カ分ヘ名

一川の音

是モ西ニキ、カヘ
ルナリ

一本葉の雨

是モキ、ニゴウ
植物降物ニ云

一草枕

只旅枕ニ 篠花草ヲ
枕ト云ヘモ

一かしの夜

カリソメノ将衣
束ニカリスル時

一浪枕

旅ニ舟ヲクテスルニ
浦里ニテツメ体

一うぢら枕

舟ト云字ナク
テハセヌ

一海

是モ舟ノケテハセヌ
ト

一高瀬舟

川舟ニ高瀬サト
モスルニ高瀬トガ
リモ舟

一さけ

ルラフニ流ト

一 おれぬし

カリ枕張こカリ
ソメニヌル体こ

一 田舎ヨシ

田舎ラカケテ
アル体こ

一 ひまふらり 田舎カメキタ

一 釜みくら 釜ナマリタル声こ

一 うき世 変道ナキ世こ

一 さくらあや 阿三キ心こ

一 巾しヨ 伊マタマアトこ
又ホメタル体こ

一 ちやんちやん サスカと玉や〜スコ
一のフこ

一 いさめ シバ一のーニゲ
ナキ似合ヌト云ト

一 つめとて 乾子あ〜のーこ

一 つたはし イヤ〜しきこ

一 けぢめ シヤ別ナキちやん

一 おけし ちやんぶ

一 うそいろ 父母こ

一 むべ 突モこ ヌトハリヤ
ト云々こ

一 うしろこ 後見こ取ノおとま
ちやんちやん

一 とのお人 番衣のんこ
トギノんこ

一 ちんちん 兄弟こ

一 後の親 ちやん父母こ

一 ちんちん 只老ノーこ

一 ちんちん 後人こ
トとせどちを達こ

一 ちんちん ミヤゲナリ
ウイカラムリ元服こ

一 ばななみ 老いりぬか
ほくもハモのちこ

一 ちんちん 及のち〜ナリ
本の枝折れ〜け知ニスルこ

一 ぼららり 板石こしれ〜
ナルナリ

一 ちんちん 及のせナリ
一 おけお及のーこ

一 いちろうさめ ソホフル雨こ
又ニカ〜袖
ぬる〜ナリ

一 ちんちん ちやんちま
世だ

一 ちんちん ちやんちま

一 ちんちん 和んさすまこ

一 ふもをゆ かつカニキ

一 ちんちん ちやんちま
〜ナリ

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 西目ナキ

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 尾ぬすの舟の
舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し びをのりし

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

一 舟をりし 舟人し 一 舟をりし 舟人し 舟人し

カ

カ

此書ハ父帰嬰ナル者ノ聞書セルヲ取集
メ又予カ聞ル所ヲ加ヘ記スルモノ也後
ノ人又後サシスベキヲヲ願ナリ

弘化三 丙午 春

素行

